

第4学年 音楽科学習指導案

令和2年

1 題材名 音の特ちょうを生かして音楽をつくろう

2 題材の目標

- (1) 打楽器の音色の特徴や奏法による強弱の違い、音の重なりについて、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付くとともに、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付ける。
- (2) 打楽器の音色の特徴や強弱の変化、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、打楽器の音色を生かした音遊びを通して音楽づくりの発想を得たりどのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもったりする。
- (3) 打楽器の音色の特徴、強弱の変化や音の重なりをつくる学習に興味・関心をもち、主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組む。

3 指導事項との関連

A 表現(3)音楽づくり ア(ア) イ(ア) ウ(ア)

〔共通事項〕(1)ア

(本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「音色」「強弱」「音の重なり」)

4 児童の実態と題材設定の理由

本校では、今年度新型コロナウイルス感染拡大を受け、年間指導計画を入れ替えた。それを踏まえて1学期は、4月の休校時から、ホームページで歌唱や器楽を中心とした学習内容を提示し、「家庭学習カード」を配布することで家庭学習を習慣付けた。学校再開後は、「知識」の習得、「思考力、判断力、表現力」の育成、「学びに向かう力、人間性」の涵養は学校で、「技能」の習熟は引き続き家庭で学習するようにしている。

2学期からは、教科書を顔の前に持ち、マスクを着用した状態で歌う活動を実施している。また、10月よりリコーダー等の指導において、音楽室で階名や運指等の確認をした後、屋上で隣との間隔を開け、一列で演奏する活動を実施している。

第4学年の児童は、音楽の学習に自ら取り組もうとする児童が多く、特に友達と声を合わせて歌うことができる歌唱表現、試行錯誤をしながら曲の構成を考え、友達と作品を交流することができる音楽づくりを好む傾向が見られる。

一方、今年度はコロナ禍における音楽学習の可能性を探るために、「リズム」の知覚・感受を基盤とした題材構成を工夫し、1学期は、「パパゲーノとパパゲーナの二重唱」「楽しいマーチ」「いろいろな木の実」で、鑑賞と器楽の領域を中心にしたリズムの組合せの学習を実施した。このような学習を継続することで、児童は、リズムの組み合わせ方を理解して表現することができるようになりつつある。

また、2学期は、「言葉でリズムアンサンブル」、「とんび」からの発展学習として「三三七拍子のリズムを使ったヨナ抜き音階での音楽づくり」など、個人またはペアによる音楽づくりの学習を実施している。これらの学習を通して「音やリズムをどのように組み合わせ、どの仕組みを使ってまとまりのある音楽をつくるか。」ということについて考える力が身に付いてきていると思うが、音をよく聴いて、自分が出している音の音色や響きについて思考しながら活動することについては、やや課題があると考えます。

なお、今回の題材で〔共通事項〕として取り上げている「強弱」については、歌唱曲「風のメロディー」「とんび」で旋律の動きを手掛かりとしてフレーズのまとまりを感じ取り、どのように歌うかを考える学習等で継続した指導を実施してきている。

以上を踏まえ、本題材では、手で持てる8種類の小物打楽器（タンブリン、トライアングル、ウッドブロック、シェイカー、クラベス、カウベル、すず、カスタネット）による音楽づくりを設定する。また、学習形態としては、密集・密接を避けるためにグループで集まって考える時間を極力少なくするとともに、児童一人一人が音楽づくりを通して自らの学びを調整し、粘り強く活動に取り組むことができるよう、個人で選んだ楽器を使って4種類の図形カードから奏法を工夫して強弱をつくったり、楽器を組み合わせ、図形カードで音楽をつくったりする場を設定する。それを全体やグループで共有し、グループの作品づくりをすることで自らの思考を再構成するとともに、材質による音色や響きの違い、奏法や強弱の変化による打楽器の音の特徴に気付く能力を育成していく。

このような学習を通して、児童が音楽をつくるための発想を得るとともに、音楽をつくる楽しさを味わうことができるようになると考え、本題材を設定した。

5 教材

○「打楽器の音楽」（教育芸術社 第4学年教科書より）

○手持ちで演奏することができる小物打楽器

（タンブリン、トライアングル、ウッドブロック、シェイカー、クラベス、カウベル、すず、カスタネット）

6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 打楽器の音色の特徴や強弱、音の重なりについて、それらが生み出す音の響きや組合せのよさや面白さなどに関わらせて気付いている。	思 打楽器の音色の特徴や強弱を聴き取り、それらの働きが生み出す音の響きのよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったこ	態 打楽器の音の響きや組合せの面白さに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとして

<p>技 強弱を表した図形カードから奏法を工夫したり、楽器の音色を組み合わせて音の重なりや強弱の面白さを工夫したりする活動を通して、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けている。</p>	<p>とと感じ取ったこととの関わりについて考え、即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ている。</p>	<p>いる。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------	------------

7 題材の学習指導計画（全4時間）

時	○主な学習内容 ・主な学習活動	☆教師の支援 □評価規準 （評価方法）
<p><ねらい>打楽器の音色や音の出し方による強弱の変化に興味・関心をもつ。</p>		
<p>1</p>	<p>○学習内容の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強弱の変化を表す4種類の図形カードを見て、オノマトペで表す。 ・声を出しながら動きで表す。 ・教科書を見て学習の見通しをもつ。 <p>○楽器の音色の知覚・感受</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの打楽器で音の出し方を考える。 ・全員で『mf 四分音符1拍 音が消えたら次の人が入る』無拍のリレー奏をする。 <p>・音の特徴について、学習カードにまとめる。 「すぐに切れる」「かたい音」「ふわふわした感じ」</p> <p>○強弱の知覚・感受</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの打楽器で、図形を見て音の特徴を生かした表現を考えながら、楽器に合う奏法で強弱を工夫する。 ・選んだ楽器で強弱の工夫をした音楽のリレー奏をする。 	<p>☆図形から音の特徴を生かした表現の発想を得るために、楽器の音色を想像しながらオノマトペで表す活動を設定する。</p> <p>☆学習の見通しをもつことができるように、デジタル教科書の動画を活用する。</p> <p>☆全員で円になり、8種類の楽器を1回ずつ試すことができるような楽器のローテーションを設定する。</p> <p>☆音の出し方を考える時間を毎回確保する。</p> <p>☆材質による音の高さや長さの違いを感じるようにするために、全員でのリレー奏を取り入れる。</p> <p>☆使う図形カードを電子黒板に掲示する。</p> <p>☆グループで相談することができるようにするために、グループごとに8種類の楽器が揃ったケースを用意する。</p> <p>☆最初に声と動きで表した強弱を思い出しながら工夫するよう助言する。</p> <p>☆材質や楽器の音色の特徴を生かした奏法を考えるよう助言する。</p>

	<p>○学習の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽器の音色や音の出し方の工夫について考えたことを学習感想にまとめる。 	<p>☆楽器の材質や奏法によって音色や強弱が変わることについてまとめるように指示をする。</p> <p>態 打楽器の音の響きや組合せの面白さに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>(発言内容・学習カード)</p>
<p><ねらい>設定した条件に基づき、選択した楽器で奏法を工夫しながら即興的に表現する。</p>		
<p>2 本 時</p>	<p>○楽器の特徴を生かした表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『mf 四分音符 1拍』の無拍のリレー奏をする。 <p>○音楽の仕組みと音の特徴を生かした音楽づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽づくりをする楽器を選ぶ。 ・カードを2枚以上使った即興的な表現を考える。 ・音の出し方を工夫し、強弱の変化がある音楽をつくる。 <p>☆設定した条件：図形カード2枚以上使う。 違うカードを使う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくった音楽を全員で交流する。 ・交流したことを基に、自分の作品を再構成する。 ・学習カードに自分の作品をまとめる。 <p>○学習の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形を手掛かりとした音の特徴を生かした表現の発想について考えたことを学習感想として書く。 	<p>☆グループで相談して打楽器ボックスから違う楽器を選ぶように指示をする。</p> <p>☆素材による響きの違いに気付くことができるよう、隣の友達の音が聞こえなくなったらすぐに自分の音を出すよう指示をする。</p> <p>☆楽器は譲り合って使うよう指示をする。</p> <p>☆聴き手に自分の思いや意図が伝わるような強弱の工夫がある表現をつくるよう助言する。</p> <p>☆音楽づくりの過程で、選んだ図形を手掛かりとして音の特徴を生かした奏法を工夫している作品があれば、全体で共有する場を設定する。</p> <p>思 打楽器の音色の特徴や強弱を聴き取り、それらの働きが生み出す音の響きのよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ている。</p> <p>(音楽表現・学習カード)</p>
<p><ねらい>発想を生かした表現をするために必要な設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する。</p>		

<p>3</p>	<p>○個人による音色を生かした楽器の選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音色を手掛かりとして、三つの小物打楽器を選ぶ。 ・図形カードを1枚選び、三つの小物打楽器で即興的な表現を考える。 <p>○グループにおける楽器の組合せの交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自が考えた即興表現を三つの楽器を組み合わせでグループで試す。 ・音色の響きでよいと思った組合せを選ぶ。 <p>○グループでの音楽づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲の構成を考える。 <p>☆設定した条件☆</p> <p>「はじめ(1)なか(4)おわり(1)」</p> <p>「全部の図形カードを使う。」</p> <p>「はじめとおわりは、同じカードを演奏する。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで音を出しながら、図形カードをどのように使って音楽をつくるかを考える。 <p>○学習の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音を選択したり組み合わせたりする中で工夫した観点についてまとめる。 	<p>☆音色に関する既習の経験を基に、楽器を選ぶよう指示をする。</p> <p>☆音をイメージすることが難しい児童は、楽器で確認してもよいこととする。</p> <p>☆発想を広げることができるようにするために、個人で考えた楽器の組合せを交流する場を設定する。</p> <p>☆図形カードを使っていろいろな組合せ方を試すよう指示をする。</p> <p>技 強弱を表した図形カードから奏法を工夫したり、楽器の音色を組み合わせで音の重なりや強弱の面白さを工夫したりする活動を通して、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けている。</p> <p>(音楽表現・学習カード)</p>
<p><ねらい> 打楽器の音色の特徴や強弱について、それらが生み出す音の響きや組合せのよさや面白さなどに関わらせて気付く。</p>		
<p>4</p>	<p>○グループ作品としての再構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲の構成を決定し、音の響きをよく聴きながら作品を仕上げる。 <p>○グループでの作品の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの作品を発表する。 ・材質による組合せのよさや音の出し方による楽器の音色の特徴、強弱の変化と曲想との関わりから気付いたことを中心に意見を交流する。 <p>○学習の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音の出し方による楽器の音色の特徴や強弱について、それらが生み出すよさや面白さとの関わりから気付いたことを、学習カードにまとめる。 	<p>☆音色や強弱の工夫、組合せの工夫等、聴き手に伝わるような工夫をするよう指示をする。</p> <p>☆工夫したことについて、代表児童が説明をしてから演奏し、聴き手が「意見を出すポイント」に沿って意見を言う交流の場を設定する。</p> <p>知 打楽器の音色の特徴や強弱、音の重なりについて、それらが生み出す音の響きや組合せのよさや面白さなどに関わらせて気付いている。(発言内容・学習カード)</p>

8 本時の学習(2 / 4 時間)

(1)ねらい 設定した条件に基づき、選択した楽器で奏法を工夫しながら即興的に表現する。

(2)学習の展開

○学習内容 ・ 学習活動	☆教師の支援 □評価規準 (評価方法)
<p>○楽器の特徴を生かした表現 (題材に合わせた常時活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『mf 四分音符 1 拍』の無拍のリレー奏をする。 <p>○めあての確認</p>	<p>☆グループで相談して打楽器ボックスから違う楽器を選ぶように指示をする。</p> <p>☆素材による響きの違いに気付くことができるよう、隣の友達の音が聞こえなくなったらすぐに自分の音を出すよう指示をする。</p>
<p>いろいろな楽器を使って音の出し方を工夫しながら、図形を音で表そう。</p>	
<p>○音楽の仕組みと音の特徴を生かした音楽づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽づくりをする楽器を選ぶ。 ・カードを2枚以上使った即興的な表現を考える。 ・音の出し方を工夫し、強弱の変化がある音楽をつくる。 <p>☆設定した条件：図形カード2枚以上使う。 違うカードを使う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくった音楽を全員で交流する。 ・交流したことを基に、自分の作品を再構成する。 ・学習カードに自分の作品をまとめる。 <p>○学習の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形を手掛かりとした音の特徴を生かした表現の発想について考えたことを学習感想として書く。 	<p>☆楽器は譲り合って使うよう指示をする。</p> <p>☆聴き手に自分の思いや意図が伝わるような強弱の工夫がある表現をつくるよう助言する。</p> <p>☆音楽づくりの過程で、選んだ図形を手掛かりとして音の特徴を生かした奏法を工夫している作品があれば、全体で共有する場を設定する。</p> <p>思 打楽器の音色の特徴や強弱を聴き取り、それらの働きが生み出す音の響きのよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ている。 (音楽表現・学習カード)</p>